

# 上野中だより

上野村立上野中学校 学校通信  
第20号(文責:校長 五十嵐貴子)  
令和5年3月10日発行



花壇では、チューリップや水仙がたくさん芽を出し、桜のつぼみも急に大きく膨らんできました。あちこちで梅や菜の花が咲き、春の訪れを感じます。

朝、教室から「3月9日」の歌声が流れてきます。卒業式が1日1日と近づいてきました。「㊦最高の思い出をつくろう」の3月、私たちの最後の最高の思い出は卒業式です。生徒たちは、いつも通り、授業をし、給食を食べ、遊んだり委員会の仕事をしたり、体育でバスケットをしたりバレーボールをしたり…。でもきっと、心の中では3年生との時間を惜しみながら過ごし、3年生もまた、中学校での生活を心に刻み込む日々だったことでしょう。

今、上野中学校は「ありがとう」でいっぱい、春を迎えています。

## 予餞会～3年生、ありがとう～



3日(金)には、予餞会を行いました。1・2年生から3年生に感謝を伝える「上中大喜利」。3年生からも1・2年生に「絆～ありがとうのメッセージ」。職員も「ふるさと」を歌って、3年生にエールを送りました。体育館いっぱいに「ありがとう」が広がりました。



## 3月の思い

中学校の卒業式が近づくと、私は3・11を思い出します。今から12年前の2011年（平成23年）、3月11日は、中学校の卒業式でした。午後、1・2年生と体育館の片づけをしていると、体育館の床がうねうねとして、まるで船に乗っているみたいに体育館が揺れ始め、天井を見たら水銀灯がぶんぶん揺れて、頭の上に落ちてきそうでした。運んでいた椅子を頭の上ののせてその場にしゃがみ、地震が収まるのを待ちました。訓練でなく本当に、校庭に避難しました。

藤岡市、上野村は震度4でした。私は、そのあと、どんなふうに生徒を帰したか、情けないことによく覚えていません。でも、生徒たちは実に落ち着いて、訓練と同じように行動しました。

災害と言えば、2019年には、台風19号が大きな被害をもたらしました。私は初めて避難所のお手伝いを経験しました。トイレトーパー、お湯、懐中電灯…。混乱する避難所で、若者の元気と若い力が、不安と困難を救っていました。

私たちは、自然の力にあらがえないけれど、人としての生活を創り出し豊かに生きていく力があります。知恵と勇気、仲間を思う心があります。命をいとおしむ愛があり、夢を持つことができます。困難を乗り越える強さを持っています。かつて、広島に原爆が落ちた時、放射能によって、向こう70年はその地に草木は生えないと言われていました。でも、広島も、長崎も、見事に復活しました。地震で燃えた阪神淡路も、津波にのまれた宮城仙台も、一步一步、復興に向かっていきます。そこで生きる人たちの夢と力がある限り、人は前へと進んでいくのですね。

津波が押し寄せ中、中学生が小学生の手を引いて高台に避難し全員の命を守ったそうです。中学生の力はすごい。人の力はすごい。私にとって3月は、そんな、人間のすばらしさを感じる3月でもあります。

上中生、頑張ったこの1年に胸を張り、自分が持っている力を惜しみなく発揮できる、そんな人になってほしいと思っています。



校庭で

小野十三郎

わたしは  
未来という言葉が好きだ  
よく考えると  
あなたたちの一人一人に  
それがどんな意味を持つのか  
なかなかふくざつで  
かんたんには使えないけど  
あなたたちとわかる日が近づくと  
なぜか、さからいがたく  
未来という そんな言葉が  
心の中からとび出してくるのだ。  
夢とか 倅せとかという言葉では  
いいつくせないものが  
その未来という言葉にあるからだろう。  
いまうす陽がさしている校庭には  
だれもない  
わずかに光をあつめて  
冬薔薇だけが咲きのこっている。  
いってみれば  
未来とは  
かすかに風にゆれる  
この一輪の  
白い花のようなものだ。  
ゆく雲のかけさえそこにうつっていて  
世界はかぎりなくしずかで  
かぎりなく美しい。  
しかしそこにあれば  
この庭にみちあられていた  
あなたたちのこえがきこえる。  
わたしは  
あなたたちのそばを  
なんども通った  
そんな日があったことを  
忘れない。

